

子育てに、 今何が必要か

明神宏和氏（元中学校長）

ナイル川のダム工事で古い遺跡が出てきて、三千年前の古代文字が発見されました。それにはこう書いてありました。「今の若い者はなっていない」

三千年前も今もそう言いながら世の中は進んできました。新しい感覚は、古い歴史を持ったものとかみ合ったりかみ合わなかったりしながら新しいものができていきます。ときには古いものを飛び越し、ときには古いものを守ることが大切です。だから今からの話は、決して若者を批難するものではなく、事実を話して今の子育てについて考えようとするものです。

「ジャマイカ族」をご存じですか。中には南方の民族ではないかと言った人もいますが、「じゃあ、まあいいか」族のことなんです。新人類研究会の出した本の中に出てきますが、心がさつと動いて「やろう」と思っても、次の瞬間「まあいいか」と引つめる無気力で

積極性のない人のことです。

この本の中にはほかにもいろいろ出てきます。「アパシー人間」は無気力人間のことで、二十、三十歳の男性に急増しています。十歳代の男性に急増しています。「マルチプル人間」はその他大勢型人間のことで、人がやるからやる、人がやらないうからやらない人のことです。

これらは、無気力、その他大勢型、積極性がないところが似通っており、新人類と呼ばれる今の日本の若者の特色を一言で言ったものです。

このことは何年も前から言われていました。「三無主義」というのは聞いたことがあるでしょう。無気力、無関心、無責任です。それからどんどん無〇〇が増えて今は十三無主義になっています。

総務庁の「青少年白書」は、現代の子の三大特色として、①耐性の欠如、②依存性が強い、③自己中心を挙げています。これが今の

子供たちの非常に大きな課題なのです。

今の子供はいやがおうでも勉強しなければなりません。我々の時代には勉強しなくても済んだが、今は勉強しないと生きていけないとも言えます。しかし、今の子供の勉強には問題があります。そこで、勉強が伸びる子、伸びない子はどんな子供かを一人の先生が八年間かけて研究しました。その結果、知能指数による頭がいい、悪いというのは、勉強が伸びる、伸びないには関係ないことがわかりました。勉強の伸びる子の共通点は、主体性、気力、集中力、持続性があるということです。これは、総務庁の言っていることとも合います。勉強が伸びない子の共通点は、めんどろくさがりで、言うだけで実行しない、自分はしないが人に強要するということです。

今の子供は生活自体に問題があるのではないのでしょうか。私が若い



いとき、四歳くらいの子供に、その子の就職のことまで考えて、幼稚園へ入れるために家庭教師をつけている人がいました。私は驚きました。結果ばかり追いかけて、子供のことなど全く考えていないのです。その子は、幼稚園から大学まで計算して学歴を積み上げ、就職する学歴積み上げ人間になっ

てしまっています。その人は、今、反省して若い人に警告しています。勉強や学歴ばかり考えていると成績が気になります。この成績というのは評価の一端であり結果にしか過ぎません。その下には、毎日毎日の勉強の積み上げがあるのです。その下には、そういう勉強ができるような生活を毎日しているかがあるのですが、大方の場合それを忘れていきます。

文部省が、家庭教育指導小学校低、中学年編を作りました。生活はどうあるべきかということを書いてあります。その中には、けんかを通して人間として必要なことを身につけるので、けんかをするのもいいと書いています。

生活は複雑です。その中で子供たちは勉強にどう取り組むかを作り上げていきます。そういう生活を親はさせているでしょうか。その時その時の人間関係を今の子供はほんとうに身につけているでしょうか。今は、生活の基本習慣や子供が育つ過程を親が知らないのです。これではいくら頭がよくてもどこかで挫折します。

一番大事なことは、毎日どんな人間関係を持ちながらどんな生活習慣を身につけているかです。その生活があつて初めてどんな勉強をするかが決まり、それによってどんな成績をとるかが決まると考えてはいけないのでしょうか。これを私は、学力の三段構造と呼んでいます。

外国人記者の子育てについての共通点は父母です。父と母が育ててくれたということです。ところが、日本では大抵母親です。大事なことは、かつては要所要所はきちんと父親が締めていたということです。今は父親は子育てをしません。母親に任せて、結果がよくなければ母親を責めます。

今の子供には、普通の生活の積み上げをさせてほしいのです。起きてから寝るまで勉強勉強、学校学校ではなく、もっと子供の生活の充実を図るようにしてほしいと思います。